

[7] 浪速区

- 89 **小西来山十萬堂跡**：来山は江戸初期の俳人。18歳で俳諧判者(宗匠)になった。晩年はここにあって十萬堂に住み多くの名句を残した。
(浪速区恵美須西二丁目歩道内)
- 90 **今宮戎神社** (浪速区恵美須西一丁目)
- 91 **願泉寺** (浪速区大国二丁目2)
- 92 **折口信夫生誕地**：釈道空の名でも知られる大正・昭和期の国文学者・民俗学者で歌人でもあった折口信夫はこの地に生まれた。
(浪速区敷津西一丁目、鷗町公園)
- 93 **鼬川舟船発掘の地**：明治11年(1871)、この辺りを流れていた難波新川と鼬川の連絡工事中に、6世紀ころのものと思われる舟船が発掘された。(浪速区難波中三丁目、浪速郵便局前)
- 94 **難波御蔵・難波新川跡**：享保17年(1732)、ここに幕府直轄の米蔵が置かれた。難波新川は御蔵への舟運のために開削された。
(浪速区難波中二丁目8、南海高架西側)
- 95 **鉄眼禅師茶毘処地**：万福寺の隠元の下で黄檗宗の布教に努めた鉄眼は、一切経の完全な開版のため喜捨を求めて全国を歴訪したが、その間に起きた大阪の洪水や全国的な飢饉の救済に集めた浄財をあてたという。過労のため53歳で没し、この地で茶毘に付された。
(浪速区元町一丁目10-2、瑞龍寺)



凡 例	
	歴史の散歩道
	その他の経路
	史跡等
	その他の施設
	鉄道及び駅

お願い

歴史の散歩道は、安全・快適に歩けることを第一に経路を設定していますが、中には交通量の多い道路もありますので、十分注意してお歩きください。また、日差しの強い季節の散歩には帽子の着用をお勧めします。

なお、地図に示した史跡等の位置は、このしおり作成時点のもので、その後建物の建て替えなどで別の場所に移っている場合もあります。



サイン柱と つたい石

歴史の散歩道には散策の助けとなるよう、「サイン柱」と「つたい石」の設置を進めています。これを目印にお歩きください。



旧タイプ



新タイプ

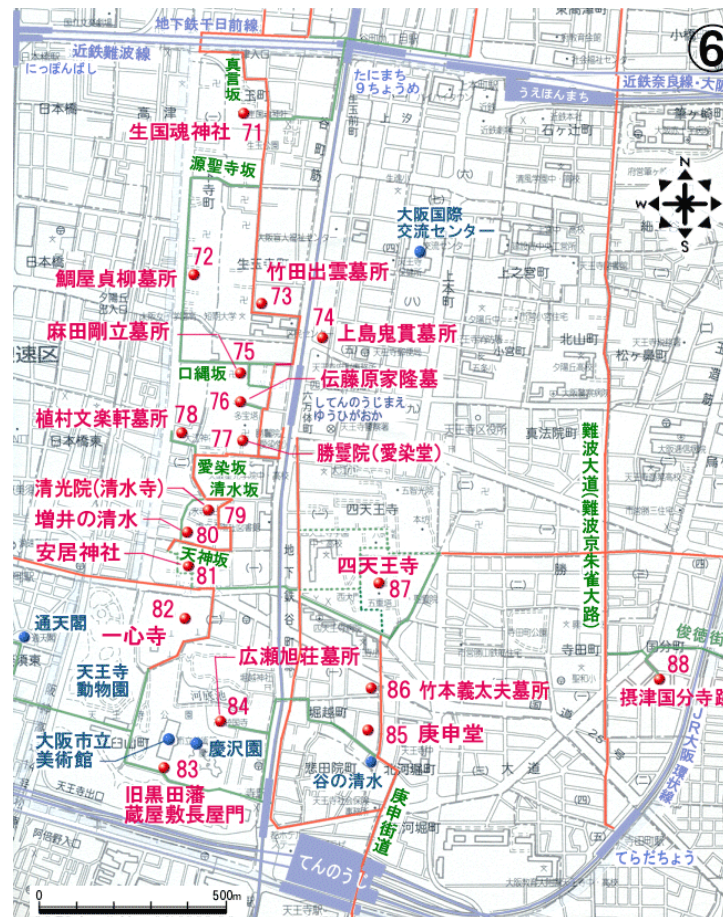


[1] 港区・大正区・西区西部（一部浪速区）

- 1 **天保山跡**：天保年間(1830年代)に行われた安治川浚渫に伴い、発生した土砂を積み上げてできた山。当時もっと高さがあったため航行の目標になり、目印山とも呼ばれた。また行楽地としても大層賑わったという。(港区築港三丁目2、天保山公園)
- 2 **波除山跡**：天保山ができる100年あまり前、河村瑞賢によって行われた安治川開削工事の発生土砂を積み上げてできた山。
(港区弁天五丁目12、弁天東公園)
- 3 **市岡新田会所跡**：元禄11年(1698)、市岡与左衛門らによって干拓された市岡新田の会所跡
(港区波除五丁目12、波除公園北西隅)
- 4 **近代紡績工業発祥の地**：明治15年(1882)、この地に日本最初の紡績工場となる大阪紡績会社が誕生した。(大正区三軒家東二丁目12、三軒家公園)
- 5 **大地震河川口津波記碑**：嘉永7年(1854)、大阪は2度にわたる大地震に見舞われ、津波による甚大な被害をこうむった。翌安政2年、死者の慰霊と津波の経験を後世に伝えるため碑が建てられた。碑文には津波に対する心構えのほか、木製であるため時々は墨を入れるようにとの注意書きがある。(浪速区幸町三丁目、大正橋東詰北側)
- 6 **大阪市電創業の地**：明治36年(1903)9月、ここ(花園橋西詰)から築港までの約5kmに大阪で最初の市電が開業した。(西区千代崎二丁目8、みなと通東側歩道内)
- 7 **龍溪禅師墓所**：宇治の万福寺を開いた明の高僧隠元に師事した龍溪禅師は、ここ九島院の開祖。寛文10年(1670)、大洪水が大阪を見舞ったが、禅師は被害の軽からんことを祈って座禅に入り、そのまま入寂したという。(西区本田三丁目4-18、九島院)
- 8 **大阪開港の地、川口運上所・外務局跡、大阪電信発祥の地**：大阪港は明治元年(1868)7月ここ川口の地に開港し、運上所(税関)や外国事務所が置かれた。3年後には、川口と造幣局、神戸を結ぶ電信が開通した。
(西区川口二丁目、大阪税関富島出張所構内)



1 天保山(浪速百景)



77 勝鬘院多宝塔

- 85 **庚申堂** (天王寺区堀越町2-15)
- 86 **竹本義太夫墓所**：慶安5年(1651)この近くに生まれた義太夫は、若いころから研究熱心で、小唄・俗謡から物売りの声まで身につけ、京・大阪で修行の後独立。作者に近松門左衛門を迎え、三味線・人形の名手を得て、「曾根崎心中」で空前の大当たりをとった。正徳4年(1714)64歳で他界。
(天王寺区大道一丁目14-1、超願寺)
- 87 **四天王寺** (天王寺区四天王寺一丁目11)
- 88 **摂津国分寺跡**：天平13年(741)聖武天皇は全国に国分寺、国分尼寺を置いた。この付近から蓮華文・唐草文の軒瓦が出土したことから国分寺跡と推定される。
(天王寺区国分町14、国分公園北西隅)